



一般社団法人
全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 佐野元彦 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org

会報

No 83



去る一月、文部科学大臣室にて、新たに就任された馳浩文部科学大臣へ表敬訪問をし、まずは八月に開催される全国大会千葉大会へのご臨席を要請した。その後の懇談の中で馳大臣は、「全国連合会として全国各地の実情を取りまとめ、現場・現実に則した要望や提言をどんどんと文部科学省にぶつけてほしい。それによって、私達の打ち出す政策もより現場に近いものになる」と述べられた。いかにも石川県で高校教員を経験した馳大臣らしいお話しである。

もとより、PTA活動の原点は、実際に高校生に寄り添い、家庭・学校・地域を結ぶ活動をしている各学校PTAにある。都道府県市連合会は、それぞれの地域単位での学校PTAに資する情報の提供や教育行政・教育関連団体との連携がその役割であり、全国連合会は、その対象範囲が国レベルということになる。この役割分担をしっかりと踏まえて活動を展開していくことが、私達高校PTAの活動を重層的にし、存在感を高めることに繋がるだろう。

このような中、新年度からは「調査統計システム」の運用が始まる（詳細はP10に掲載）。これによって、全国約四〇〇〇の高校の現状を迅速に知ることができるようになる。社会状況の大きな変化に伴い、高校や日本の教育全体が改革を迫られている今こそ、馳大臣がおっしゃる通り、現場感覚溢れる要望や提案が重要になってくる。全国連合会の活動が各学校PTAや都道府県市連合会にとって有益なものになるよう、本システムの運用に格段のご協力をお願いする次第である。

今号の主な内容

●全国会長・事務局長研修会報告

- 講演「公職選挙法改正をめぐって
～18歳選挙権と大人の姿勢～」 2～3頁
- 講演「第7回 高校生と保護者の
進路に関する意識調査」 4～5頁
- 講演
「地域と学校の連携・協働について」 6頁

- 被災地の高校ルポ 7頁
- 平成28年度事業計画 8～9頁
- 調査統計システムの運用について 10頁
- 「高大接続システム改革会議」 11頁

●PTA活動実践事例紹介

12～13頁

- 宮城県・山口県・奈良県・新潟県
- 健全育成に係る研修会等の活動助成報告 14頁
- 賠償責任補償制度のお知らせ 15頁
- 第66回全国大会千葉大会のご案内 16頁



佐野会長と
馳大臣の
対談の様子

「公職選挙法改正をめぐって」

「18歳選挙権と大人の姿勢」(要旨)

東京大学大学院教育学研究科 教授 小玉重夫氏



本日は、18歳選挙権と大人の姿勢ということ、公職選挙法改正に関することを、お話しさせていただきます。

まずこの問題を考える際の起点として、教育基本法の第14条を改めて確認しますと、政治的教養の尊重ということがこの条文の主旨で、政治的教養の尊重を達成する為には政治的な中立性が要請されるという第2項が続く論理構成になっています。

しかし、学校教育現場の戦後の歴史では、国内的には55年体制、国際的には冷戦という時代が、1950年代から約30年間続き、70年前後の高校紛争、大学紛争というものがイデオロギー的な運動として学校の現場でも存在していたという状況があつて、どうしても第2項が独り歩きして、学校が政治を扱うことがタブー視されるという状況

が続く、結果として学校教育において政治的な教養が育まれないという問題がありました。

そこで、シティズンシップ教育ということが近年言われるようになってきました。教育基本法第14条の精神の下、社会を形成する、国家社会を形成する公民、市民を育てるとするのは、日本の学校教育の存在意義そのものと言ってもいい訳です。しかし、必ずしもそれが十分果たされてこなかった理由の一つは、前述の状況下で、政治と教育が切り離されて、政治を扱うことがタブー視されてきたこと。もう一つの大きな問題は、受験体制との関係で、学校における授業がどうしても知識の注入、習得というものに偏ってきたということです。教本だけで政治を学ぶのではなく、いかに実地の部分を取り入れ

るかが、シティズンシップ教育が言われるようになった所以でしょう。

シティズンという言葉は「市民」と訳されますが、民主主義に参加する市民、政治に参加する市民という意味合いです。同時に、専門家ではないアマチュアという意味も含まれています。高校教育の建前としては、市民的な教養として学問を教え、それを身につけた高校生が将来社会に出て、市民としてそれぞれの専門的な分野で活躍をしていくということですので、市民性を養うことは学校教育の存在意義そのものであるわけです。

振り返ると日本でも、2006年には経済産業省が「シティズンシップ教育宣言」を出し、また、総務省では新たなステージとして「主権者教育」を唱え、文部科学省関係では2003年の中教審答

申以降、「新しい公共」を学校教育で育てるという方向性が貫かれています。

日本ではイギリスのシティズンシップ教育を参考にしていますが、その中で言われているのが「政治的リテラシー」という考え方です。この政治的リテラシーという考え方は、冒頭で述べた教育基本法第14条に書かれている「政治的教養」と同義です。では何が政治的教養なのかということですが、バーナード・クリックというイギリスの政治学者が、政治というのは、意見が対立したり、異なる価値観が存在しているところに発生するのだから、何が対立しているのかを理解することが政治的リテラシーの核心だと言っています。従って、政治教育で一番重要なのは、対立を知ること、争点を知ることになる訳です。しかし、日本

の学校教育では、議会政治の仕組みや憲法の条文などを知識として教えますが、生の政治、例えば安全保障法案やTPPの問題、エネルギー問題で人々の意見が分かれるのは何故なのかという、対立していることの本質を知るということを今まで避けてやってこなかったのではないのでしょうか。

イギリスのシティズンシップ教育では、論争的な課題を扱う際の教師の立場として、「中立性」・「バランス」・「明示的に自分の意見を言う」という3つの組み合わせが大

事だと言われています。中立性は比較的分かりやすいと思いますが、バランスをとるとするのは、例えばクラスで議論したら39対1になった場合、教師はあえて1人の味方をする事でクラス全体の理論を作っていくというやり方。明示的に自分の意見を言うというのは、数ある意見の中に自分の考えに近い意見あつた時、それを自分の主義主張として言うのではなく、自分だったらこう考

えて生徒の議論を活性化させるということ、この3つを組み合わせることで、本当の意味での中立的な、そして生徒自身が論争的な問題を考えることが可能になるとされています。

政治的リテラシーの本質は、争点を知り判断できるところにありますが、これを学ぶためには単に知識を学ぶだけではなくて、生徒自身が能動的にアクティブに学習する、いわゆるアクティブラーニング、能動的な学習が目玉になります。

東大附属中等教育学校では、消費増税の問題を各政党の区議会議員や税理士も加わって議論をする授業などが展開されています。神奈川県立湘南台高校では、総合学習と現代社会の時間に模擬議会を作り、そこで実際に論争的な問題を取り上げて議論をしています。それから、お茶の水大附属小学校では、原発再稼働の是非、国道の自

中で議論がされてい
ます。シティズンシップ教
育・主権者教育という
どうしても社会科と想定

されがちですが、実は英
語、国語、保健体育、道
徳の時間でも出来るだ
のではないかと研究も
進められています。また、
「私たちが拓く日本の未
来」という副読本が全国
の高校生全員に配布さ
れますが、解説編では政治
や選挙の仕組みが説明さ
れていて、実践編では模

擬議会・模擬請願・模擬
選挙の実践例が掲載さ
れています。

最後に、いま一番話題
になっている高校生の政
治参加の問題について触
れます。今回の昭和44年
通知の見直し案では学内
の政治活動を禁止してい
ますが、学内・学外の境
界線が曖昧な事例が多々
想定されます。境界線が
曖昧なものをノーにすれ
ば、学校としてリスク管
理はやりやすい訳です

が、結果的に学校現場が
萎縮してしまうことは避
けなければいけないと思
います。そのためには、
PTA・校長会・選管・
教育委員会が連携して、
政治教育や主権者教育の
取り組み、そこでの生徒
自身の取り組みは、基本
的に促進する方向で見守
っていくということが重要
でしょう。

それから、ドイツでは
超党派で政治教育セン
ターを作り、政治教育を
行っています。日本でも
政党助成金を拠出し合っ
て政治教育センターを作
るなど、政党も政党政治
活動とは別の観点から政
治教育に関わっていくと
いうことも望まれるので
はないかと思っています。

政治というものが学校
教育の中で規制されてき
た背景には、政治活動が
暴力的なものと結びつい
ていたということがあっ
たと思います。しかし、
政治というのは、人を傷
付けずに、いかにして異
なる意見の人達が一緒に
暮していく社会を作るの
かというところに本来の
役割があるものですの
で、政治活動に高校生が
参加するということを飲
迎して促進していくとい
う視点が必要だと思いま
す。政治を学ぶことがア
クティブラーニングの契
機になって、世の中のこ
とを広く知ろうとする。
政治というのは学習と対
立するものではなくて、

むしろそれは相補い合う
もの、そのものであると
言って過言ではないで
しょう。

新しい時代に、高校生
が政治というものを実際
に参加しながら学んでい
く。未来の主権者を実際
に主権を行使し、政治に
参加する中で政治を学ん
でいくという精神を根幹
に据えて、学校現場にお
ける政治というものを考
えるということが必要な
のだと思います。

10月京都研修会挨拶(要旨)

会長

佐野元彦

平成27年10月4日(日)

選挙権年齢が18歳以上
に引き下げられたという
ことを受けて、高校にお
ける主権者教育・シチズ
ンシップ教育が大きな課
題として浮上してきまし
た。これは学校現場でも
相当悩ましいところで、
いよいよPTA、保護者
の順番になってきたので
はないかと思っています。

スタートラインについ
たばかりですので、まず
は現状と課題を知るとこ

ろから始まるということ
で、今日は主権者教育・
シチズンシップ教育の第
一人者である東京大学の
小玉重夫先生にお越しを
いただき、基本的なところ
から学びを深めたいと
思います。

皆さんは、旧文部省が
出した昭和44年通知をご
存じでしょうか。大学紛
争の動きが高校に及んで
きた昭和44年、高校にお
ける政治活動と政治教育

に関して出された通知で
す。今回、選挙権年齢の
引き下げに伴って、その
通知を見直すということ
になり、これまで7月と
8月の2回、教育関係団
体の代表や有識者の方た
ちの意見交換会が開催さ
れ、私も高校生の保護者
代表という立場で参加
し、意見を述べてきまし
た。しかしつい最近、文
科省が通知の見直しを発
表する前に、メディアが
リークをしてしまい、新
聞紙上で公表されてしま
いました。メディアが
リークするということ
は、それだけ社会の関心

が高まっていることだろ
うと思いますし、これか
らの地域社会や日本全体
の中で非常に重要な課題
だと思います。

今日は、ご講演の後、
約1時間の意見交換の場
を設けています。小玉先
生からご教示いただいた
上で、それぞれの都道府
県市の状況を踏まえて、
活発に意見交換をしてい
ただき、私の連合会では
どういう形で学校PTA
の皆さんにこの情報をお
伝えするかということ
を、深い学びとして持ち
帰っていただく有意義な
機会になれば幸いです。

冒頭、学校だけにお任
せするのではなく、私達
保護者も積極的に関わる
ことが必要ではないかと
お話ししましたが、これ
を進めていく上でPとT
のがつちりとしたスクラ
ムがなければ難しいこと
ですし、逆に混乱を招く
恐れもあります。

8月の全国大会の挨拶
でもPとTのスクラムの
話をさせていただきまし
たが、分科会発表で非常
に印象深かったのが広島
県立松永高等学校の発表
でした。3年ほど前まで
非常に荒れていた学校
で、広島県内でも悪評が

立つていた学校を、校長
先生とPTA会長ががつ
ちりとスクラムを組ん
で、2年で正常な学校に
戻したということでした
。やはり私達はPTA
と名乗っている組織です
ので、PとTのがつちり
としたスクラムがいかに
大事かということを松永
高校の事例から学んだ次
第です。

今日は、会長と事務局
長、それこそPとTが50
人と50人で100人揃いで
すので、ぜひお隣同士で
も意見を交わしていただ
ければ大変ありがたいと
思います。

「第7回 高校生と保護者の進路に関する意識調査」(要旨)

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

「キャリアガイダンス」編集長

山下 真司 氏



(1) 親子コミュニケーションの実態

親子の会話頻度は概ね多く、子どもの希望進路についても約9割が共有。ただし、進路選択の悩みや不安の共有となると、7割を下回る。

会話の内容については「具体的な進路」「将来の職業」「自分の夢」。親子の会話の頻度が多いほど、話す内容が幅広い傾向がある。他方、話さない理由としては「めんどろくさいから」が1位に。男女別で見ると、女子に「話しても変わらない」「反対される」「保護者が興味なさそう」の傾向が見受けられる。保護者がよく使う言葉は「自分の好きなことをしなさい」

が親子ともにトツプで共通認識。「勉強しなさい」「経済的に厳しい」「大学ぐらいは出ておいた方がいい」と子どもが強く感じている反面、「資格取得」「技術を身に付けた方がいい」という保護者の思いは、子どもとの認識にギャップも。

保護者のアドバイスを約6割の子どもが求めている一方で、35%は不要と回答。理由としては、「今の大学のことを知らない」「姉に聞いた方がわかりやすい」「無難な職に就かせようとしているのが伝わってくる」など。

(2) 進路にまつわる期待と不安

7割の高校生が自分の進路に不安を

感じている。保護者との会話頻度が多い子どもほど、前向きな傾向も。

進学において気にかかる項目の上位は、「学力」54%、「自分に合っているものがわからない」33%、「やりたいことが見つからない」31%。

6割を超える子どもと保護者が、働くことに気がかり感じている。

これからの社会の展望について、高校生の48%が「好ましい」と捉えている反面、保護者は55%が「好ましくない」と感じており、捉え方にギャップが存在している。

保護者の約7割が進路のアドバイスが難しいと回答。その理由の上位3項目は「入試制度をはじめ最新の進路情報

報を知らない」「社会がどのようになっていくのか予測がつかない」「経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ない」

高校生が就きたい職業の上位は「教師」「公務員」「看護師」。一方、保護者が子どもに「就かせたい職業」は「公務員」「看護師」「医療関連全般」が上位を占める。

進路検討において保護者が最も重要視している項目は「入試制度の仕組み」が57%、前回調査の2位からトップに。以下、「進学費用」56%、「将来の職業との関連」46%、「学部・学科の内容」38%、「就職の状況」38%と続く。

学部・学科・コースや、気になる学校の入試情報などを

調べたり、オープンキャンパスに参加するなど、保護者自らが「行動する」傾向に。その理由としては「子どもと一緒に考えたい」65%が最多。保護者の過干渉気味の傾向は前回調査と変わらず。

保護者の「キャリア教育」の認知は33%と依然高くない。

(3) 子どもに身につけて欲しい能力

社会で働くにあたって必要とされる能力において、子どもに不足していると感じるのは「主体性」「実行力」「発信力」。一方、子どもが現在持っていると思われる能力は「規律性」「傾聴力」

社会で必要とされる能力を身につける有効な場の上位3は、「部活動」「校外活動」「文化祭・体育祭」で、「教科の学習」よりもスコアが高い。主体的・能動的な学習である

るアクティブラーニングは、保護者への認知がまだ低いと推察される。

高校生の約50%がグローバル社会で通用する人材に「なりたい」と回答。他方、保護者は「なつて欲しい」は40%に留まり、「わからない」が46%と最多。

(4) 奨学金認知と貸与型奨学金制度の利用意向

保護者・高校生ともに、給付/貸与、有利子/無利子、大学独自/自治体など、奨学金の制度の概要の認知はあるが、申込み方法や具体的な制度の認知は進んでいない。

「貸与型奨学金」の利用意向については、保護者52%、高校生41%。

(5) 今回の調査を通じて(まとめ)

保護者・高校生ともに、進路に関する親子コミュニケーションは概ね

良好な関係性が今回の調査でも確認することができた。進路の不安や悩み、相談する相手の有無など、親子の会話の頻度との相関が見受けられた。保護者が進路選択において最も重要だと考える情報は、「入試制度」。前回の「進学費用」を抑えて1位に。より一層複雑化する入試制度に加えて、現在、審議されている「高大接続改革」の影響

響も少なからず影響しているのではないかと。

これからの社会の見通し、複雑化する入試制度など、保護者の不安が募り、子どもを応援したい気持ち「過干渉」気味な状態を生み出す側面も。「保護者」から「自立支援者」へのシフトチェンジが大切である。最後に、キャリアガイダンスVol.411において、全国高等学校校長協会・

会長の宮本先生と全国高等学校PTA連合会の佐野会長の対談を掲載。子どもの自己実現と幸せを願うのは共に同じ。今こそ、学校と保護者は連携するときだと思う

(2月6日)



【調査概要】

第7回『高校生と保護者の進路に関する意識調査』
一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ合同調査

調査対象 / 全国の高校2年生とその保護者（9都道府県の公立高校26校：2年生2クラスの生徒とその保護者）
調査期間 / 2015年9月24日～10月28日
有効回収数 / 高校生：1,887名
保護者：1,584名

(調査の詳細はこちら)
リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/research/2010/07/post-7a54.html>

2月東京研修会挨拶（要旨）

会長

佐野元彦

平成28年2月6日(土)

冒頭、昨年の京都での研修会から今日までを振り返って、二つ三つお話ししたいと思います。

一つ目は、12月に福島県連のご協力の下、富岡養護学校とふたば未来学園の2校を訪問しました。その目的は、東日本大震災の発災以来、全国高P連に関わる全国各地の大勢の皆様から支援金を頂戴していますので、激励も含めて状況を確認し、それを会員の皆様たちに報告しようということです。富岡養護学校で

は支援金で新しい電気炉を購入し、陶器の製造・販売に大変役立っていますという喜びの言葉をいただきました。ふたば未来学園は、被災地にある五校を統合して中高一貫で未来先取り型の教育をするために設立された学校です。先生方もそして生徒たちも、絶望から立ち上がり雄々しく希望に向かって前進しており、大変頼もしく思ったところです。

二つ目は、昨年の秋の研修会での挨拶で、いま進んでいる教育改革の中で、「教育」から「学修」という言葉に変えることが必要ではないかと話しましたが、ある県連の事務局長さんから詩人の長田弘さんのエッセイを紹介されました。「教育」という言葉は一般的に教えるという意味で使われているが、教育の育には一人一人の人間の成長を自発的に促すという意味が込められている」というものです。誤解を生むような話し方をしてしまったと反省する次第ですが、言葉と考える方は繋がっていますので、大きく見方を変えようとする時には言葉自体を変えてしまうことも一法ではな

いかと考えるところです。教育の育に含まれる意味は当然尊重しながらも、今後は生徒の主體的な「学び修め」を強調する「学修」という言葉を使っていくことが新しい学力観を社会全体に広げていくために必要ではないかと考えます。学んでインプットしたことをアウトプットしてはじめて修めたことになると思うのです。学校だけではなく、広く地域社会や家庭など、様々な場面で多様な体験をして成功したり、失敗してまた学びに戻り、そしてまた行動して修める。学修の場が学校だけではなく地域社会や家庭へと広がることを考えた時、P

TAの存在は重要であり、しっかりと役割を果たしていかなければならないと思います。

キャリアガイダンス2月号に全国高等学校長協会の宮本会長さんとの対談が掲載されました。その中で強調したのは、子供たちの成長にとって教職員と保護者は同志であるということを確認し合いませんかとということでした。そのためには、各高校の教育方針や教育活動の意図を保護者がしっかりと理解をしなければいけません。保護者の方からアプローチするのはハードルが高いので、学校から保護者に対して情報公開を積極的にお願

いしたいとお話をしました。保護者がきちんと理解していれば、いわゆるモンスターペアレントが出現した際にも自浄作用が働くでしょうが、もし学校が情報をクローズしていれば、もしかしたらと疑心暗鬼になってしまうかもしれません。

いずれにしても、前回の研修会でも申し上げました通り、私達はPTAです。PとTがしっかりとタッグを組んで子供たちのために活動していかなければなりません。同志であるということとをきちんと踏まえ、27年度の総括、そして28年度以降の全国高P連の活動に向ってまいります。

講演

地域と学校の連携・協働について(要旨)

文部科学省生涯学習政策局 社会教育課

地域・学校支援推進室長

渡辺 栄二氏

「次世代の学校・地域」
創生プラン(馳プラン)

昨年12月、中央教育審議から「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」が提言されました。また、本年1月、本答申も踏まえた「次世代の学校・地域」創生プラン(馳プラン)が公表されました。本日はこの2つについて説明いたします。

な教育基盤構築等の観点から、学校と地域がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要となつてきております。

に、新たな体制として「地域学校協働本部」を全国的に整備すること等が提言されています。

方について、次のような方向性が示されています。

このような背景を踏まえ、答申においては、

特に後者の「今後の地域における学校との協働体制の在り方」については、これまでの学校支援

の活動を基盤に、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進すること

①今後のコミュニティ・
スクールの在り方

制度面・運用面の改善とあわせ、教育委員会に学校運営協議会の設置努力義務を課すといった総合的な方策により、コミュニティ・スクールの一層の推進を図ること

と地域との関係構築につながるなど、一定の成果は評価されていますが、一方で、活動間の連携が十分でないことが指摘されています。また、特定の個人に依存するなど持続可能な体制ではない等の課題もあります。これからは、地域住民が学校のパートナーとして主体的に参画し、地域と学校との関係を新たな関係(連携・協働)に発展させることが必要となります。

○「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制としての「地域学校協働本部」を全国的に整備すること

○「次世代の学校」創生・学校運営協議会の設置の努力義務化などによる、コミュニティ・スクールの推進・加速等の専門職員との連携・分担による指導などによる、学校のマネジメント機能の強化

・養成・採用・研修を通じた教員制度の一体改革

答申の背景とポイント

昨今、地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘されています。また、学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教職員のみならず社会総掛かりで対応することが求められています。

このため、これからの厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的

②今後の地域における学
校との協働体制の在り方

地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民等の参画により地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進すること、そのために従来の活動を基盤

○「地域コーディネーター」(地域住民や学校との連絡調整役)及び「統括的なコーディネーター」(複数のコーディネーターとの連携調整役)の配置や機能強化を推進すること

○「次世代の学校」創生・学校運営協議会の設置の努力義務化などによる、コミュニティ・スクールの推進・加速等の専門職員との連携・分担による指導などによる、学校のマネジメント機能の強化

○「次世代の学校」創生・学校運営協議会の設置の努力義務化などによる、コミュニティ・スクールの推進・加速等の専門職員との連携・分担による指導などによる、学校のマネジメント機能の強化

PTAの皆様におかれましては、これまでもPTA活動に積極的に参加いただいておりますが、今後、それぞれの地域における地域学校協働活動の取組への参画や、地域コーディネーターの活動を担っていただくなどの積極的なご協力をお願いいたします。

東日本大震災・シリーズ・被災地の高校ルポ

東日本大震災から5年の歳月が経過しましたが、被災地の復旧・復興には、今なお多くの課題が山積しています。

全国高P連では、震災直後から被災地の高校生や学校PTAの支援を行うために、全国の加盟校の皆様のご理解とご協力を得て義援金を募り、昨年度は全国から24万7801円の善意が寄せられ、前期繰越金を加えた230万円を第七次配分として福島県高等学校PTA連合会に寄託いたしました。

本会では、東日本大震災の記憶と被災地の高校生および学校PTAの現状を伝え続けることと継続的な支援策を事業計画に盛り込んでおり、今年度は12月14日に佐野会長ら池口常務理事、木戸調査広報委員長が福島県連田中会長、青木事務局長、県連副会長らとともに、福島県内2校を表敬訪問しました。



ふたば未来学園の校長、副校長、PTA会長に訪問の目的を話す佐野会長

ふたば未来学園高等学校は、双葉郡の方々の「双葉の教育の灯を絶やすことなく灯し続けたい」という強い願いと、復興を実現し、先進的な新しい教育を創造しようとする国など関係機関の熱き想い、そして何より、震災後、子どもたちの中に芽生えた復興を成し遂げようとする強固な意志、夢を実現しようとする意欲、新しい価値観、創造性、高い志を礎として、平成27年4月福島県広野町に開校しました。

原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーの育成

原子力防災研究、再生可能エネルギー研究など5つの班からなる課題研究を国内外の研修で行うなど、先進的な教育を実践するとともに、ふるさとの復興を担い、双葉郡の中学校との連携も図りながら、社会へ未

来へと貢献する人材育成を目指しています。



タブレットを使ったユニークな授業



私たちに熱き想いを語る丹野校長

自立・協働・創造

1000年に一度といわれる大震災、そして福島第一原発事故という今まで日本人が経験したことのない現実。これまでの価値観やシステムでは解決できない諸課題に対して、「変革者たれ」という建学の精神で、果敢に挑戦する丹野校長、南郷副校長をはじめとする教職員、生徒の皆様の姿に大きな感動と希望の光を感じました。

富岡養護学校は、福島県一原発より直線距離で6.5kmの双葉郡富岡町に所在していました。震災により現在は、いわき市平馬目の仮設校舎で小・中・高等部33名が学んでいます。このうち高等部の生徒は13名で、国・数・音楽・美術・保健体育のほか、作業学習や将来の生活や仕事に必要な教科として職業を設けて日々学習をしています。作業学習では木工班と工芸班があり、訪問当日は工作機械を巧みに操作し、裁断、加工した木材を丁寧やすりをを使って仕上げる「二輪ざし」の工程を見学しました。

寄り添い続けることの大切さ



中等部作成のアメリカン「一輪ざし」

震災前には、高等部42名を含む114名の児童・生徒が在籍していましたが、震災による避難等で児童生徒の安否確認に自らの安全を後回しにして奔走した教職員の行動や、現在に至るまでの生々しい苦難をお聞きしました。頭が下がる思いがしました。そうした中、全国高P連の義援金により購入された「電気炉」が授業で活用されている様子を見て、被災された方々、被災地に思いを寄せ続けることの大切さを改めて感じました。



小学部の授業も見学



「電気炉」を使つての実習



挨拶をする佐野会長



いわき市にある仮設校舎

平成 28 年度

事業計画

平成28年
2月6日
理事会決定

I 基本目標および事業方針

本会は、高等学校PTAを通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的として、定款に即して次の事業を行う。

(1) PTA活動の充実に資する研究大会、講演会、研修会の開催

(2) 高等学校PTA活動に関する調査研究

(3) 青少年の健全育成および生涯学習に資する情報収集と提供

(4) 広報紙等の刊行

(5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰

(6) 社会環境（教育環境）整備の活動、家庭の健全化を図る活動

(7) 賠償責任補償制度の運営に関する活動

(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

II 事業別計画

1 PTA活動の充実に資する研究大会、講演会、研修会の開催

- (1) 全国大会
第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会を千葉県高等学校PTA連合会の主管により開催する。
- ・テーマ：「再発見！愛」（サブテーマ「〜今こそ信じよう愛の絆〜」）
・場所：千葉市美浜区／幕張メッセ
・日程：平成28年8月25日（木）開会式、基調講演、分科会
平成28年8月26日（金）記念講演、閉会式
- (2) 地区大会
各地区高等学校PTA連合会の研究大会を次の通り開催する。
- (別表)
- (3) 全国会長・事務局長研修会
会員50団体の会長・事務局長の情報共有と研鑽のため下記のとおり開催する。
- ・第1回 平成28年10月

2 高等学校PTA活動に関する調査研究

- ・会員50団体および会員団体所属の学校PTAに関する基礎情報を収集、蓄積する。
- ・東日本大震災被災地の高校教育、PTA活動の調査を継続する。
- ・その他、各事業分野における追加的「調査」活動を円滑に実施する。

3 青少年の健全育成および生涯学習に資する情報の収集と提供

- (1) 「平成28年度全国高校生生活意識調査」
「高校生の育成環境改善のための継続の実態調査」として平成12年度から全国の高校生を対象に行っている調査研究。26年度からは進路意識調査と交互に隔年実施の方針で運用しており、28年度も実施する。
- ① 集計分析委託：木原雅子氏（京都大学大学院医学研究科准教授）
- ② 事業概要
・調査対象：…高校2年生
・調査実施校：…全国9地

(別表)

地 区	開 催 日	場 所
北海道地区	6月11日(土) 12日(日)	北海道函館市
東北地区	7月7日(木) 8日(金)	仙台市
関東地区	7月8日(金) 9日(土)	山梨県甲府市
東京地区	7月9日(土)	東京都渋谷区
北信越地区	7月8日(金) 9日(土)	福井市
東海地区	6月17日(金)	静岡市
近畿地区	7月2日(土) 3日(日)	大阪市
中国四国地区	7月15日(金)	香川県高松市
九州地区	6月16日(木) 17日(金)	大分県別府市

- 区各5校、合計45校（各地区普通科3校・専門学科または総合学科2校）、各校4クラス（160人）、合計7,200人規模
- （ただし、実施校の実情に配慮し柔軟に対処する。）
- ・調査方法：アンケート用紙に記入（糊付封筒に密封して提出）
- ・調査期間：平成28年9月24日～10月20日
- ③ 結果の活用：
・平成28年度全国高校生生活・意識調査報告書（平成29年3月31日発刊）。
- 加盟PTA約4,000校に各3部配布。
- 全国高P連ホームページ「調査研究」頁に掲載。
- ・結果に基づく学習会、研修会を実施する。
- ・結果に基づく問題提起や政策提言に関係機関、報道機関等に働き掛ける。28年度末から29年度にかけて事業展開する。
- (2) 「自転車、バイク、歩行者のマナーアップ運動」
① 自転車、バイク、歩行者のマナーアップ運動について次の取り組みを行う。
- ・各連合会が地域の実情に応じて実施する啓発活動を助成する。
- ② 「バイクの3ない運動」は、第62回全国大会

- 会和歌山大会において「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動」を掲げ、その1項目として「バイクの3ない運動」は埼玉大会宣言文を踏襲する」と表記して継続している。29年度（第67回静岡大会）がその見直し時期に当たするため、28年度は方向性について検討を始める。
- (3) インターネットリテラシー向上のための取り組み
① 高校生や保護者の啓発を図り、文部科学省や総務省、民間の団体との連携活動を推進する。
- ② 保護者啓発の一環として、安心ネットづくり促進協議会（安心協）が主催するILAS・テストの実施に協力し、データの提供を受ける。
- ③ 地区単位・都道府県市単位での研修会等を通じて広く啓発に努める。
- (4) 薬物乱用防止パンフレットの制作および配布
平成11年度から（二財）日本宝くじ協会の助成を受け、専門家の協力を得て実施している事業で、毎年改訂版を発行している。専門委員会の薬物乱用防止パンフレット編集委員会が担当する。

- ・委員構成……外部専門
家4名、会長・健全育
成委員長の計6名。
・発行部数……110万部
・配布対象……加盟校新
1年生保護者 その他
- (5) 薬物乱用防止研修会の
実施
地区連合会・都道府県
市連合会などの研修会・
学習会等を通じて広く啓発
に努める。
- (6) 全国大会での研究発表
進路対策委員会の担当
により、「第7回高校
生と保護者の進路意識
調査」結果に基づく研
究発表を行う。
- (7) 教育課題に関する調査
研究
- ① いじめ防止対策等の
人権尊重・生命尊重に
関するPTA活動の在
り方を調査研究し、広
く情報提供する。
- ② 18歳選挙権に関する
PTA活動の在り方を
調査研究し、広く情報
提供する。
- ③ 子どもの貧困問題の
実情を調査研究し、課
題解決の方策を模索す
る。
- ④ 広報紙等の刊行
本会関係の情報を総合
的、包括的に提供するた
め印刷媒体として会報を
発行する。27年度より、
次の編集方針で年2回発
行している。
- ① 10月1日付発行（組
織概要、活動概要、定
時総会関係、全国大会
関係など）
- ② 4月1日付発行（事
業計画概要、調査結果
概要、研究成果概要、
実践事例など）
- (2) ホームページの充実
本会関係の情報を適
宜、広範囲に提供す
るためホームページの運用を
改善する。
- ① 本会行事、会員関係、
学校PTA活動に関す
る情報紹介努める。
- ② 優れた実践事例の収
集と紹介その他各種資
料のデータベース化を
進める。
- 5 顕著な業績をあげた
PTAその他の団体及
び個人の顕彰
- (1) 全国高P連としての表彰
第66回全国大会千葉大
会において、本会表彰規
程に基づき、団体、個人
を顕彰する。なお、従
来は実行委員会が事業執
行に当たっていたが、当
年度より本会事務局の担
当事業とする。
- (2) 文部科学大臣による表
彰事務協力
第66回全国大会千葉大
- 会において、文部科学大
臣表彰の場を提供し、運
営に協力する。なお、従
来は実行委員会が事業執
行に当たっていたが、当
年度より本会事務局の担
当事業とする。
- 6 社会環境(教育環境)
整備ならびに家庭の健
全化を図る活動
- (1) 就職支援・進学者に対
する環境整備
高校卒業予定者および
既卒者の進路実現のため
文部科学省等の省庁、諸
機関に要請を行う。
- (2) 官庁等への意見表明、
要請行動
文部科学省等の省庁、
諸機関に対して意見表明
や情報提供を積極的行
う。
- (3) 他の関係団体、機関と
の連携
・文部科学省等の省庁、
教育関係機関等が設置
する諮問会議等への参
画機会を活用する。
- ・文部科学省等の省庁、
教育関係機関等との情
報交換、連携活動を進
める。
- ・文部科学省等の省庁、
教育関係機関等が主催
する企画に後援名義の
許諾、協賛を行う。
- 7 賠償責任補償制度の
運営に関する活動
- (1) 普及啓発活動
- 各都道府県市高P連を
通じ、各学校PTA等に対
し本制度のPRに努める。
- (2) 自転車事故防止の取組み
関係諸機関と連携し
て、自転車事故防止のた
め次の取組みを行う。
- ・PR媒体としてのSNS
を活用して高校生お
よび保護者に対する直
接的な啓発を行う。
- ↓交通安全運動などと
連携し、ツイッター広
告を2か月間程度の
時限キャンペーンと
して展開する。
- (3) 本制度の見直しに係る
検討
制度の維持を図るため
具体的な方策を継続的に
検討する。
- 8 その他この法人の目
的を達成するために必
要な事業
- (1) 東日本大震災被災地の
高校生及びPTAの活
動支援
・募金活動を継続し、被
災地の高校およびPTA
に義援金として配付
する。
- ・被災地の実情調査を継
続するとともに、本会
メディアを通じて全国
に情報発信する。

グローバル化時代を生きる高校生を応援します



高校生新聞® 高校生スポーツ®

グローバル化や情報化が急速に進展する中、高校生を取り巻く状況も大きく変化しています。これからの日本を担う高校生に、希望をもって生きる力と知恵を育んでほしい。高校生新聞はそんな思いから、学校生活、社会や世界の動き、進路や学問など、高校生に知ってほしい確かな情報をお届けします。

- 1993年10月創刊 ●タブロイド判／オールカラー／16～28ページ
- 毎月10日発行(8・2月休刊) 定期購読のお申し込みはホームページから

SP 学校パートナーズ 取材依頼は編集部へ
TEL.042-725-1155
高校生新聞社 henshu@sclpa.jp

東京本社:〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10
大阪本社:〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148
<http://www.koukouseishinbun.jp/>

【実施手順と業務運用について】



全国高等学校PTA連合会

- ・アンケートの作成
- ・URL・パスワードの作成、各県連への配布
- ・アンケートの集計、公開



各都道府県市高等学校PTA連合会

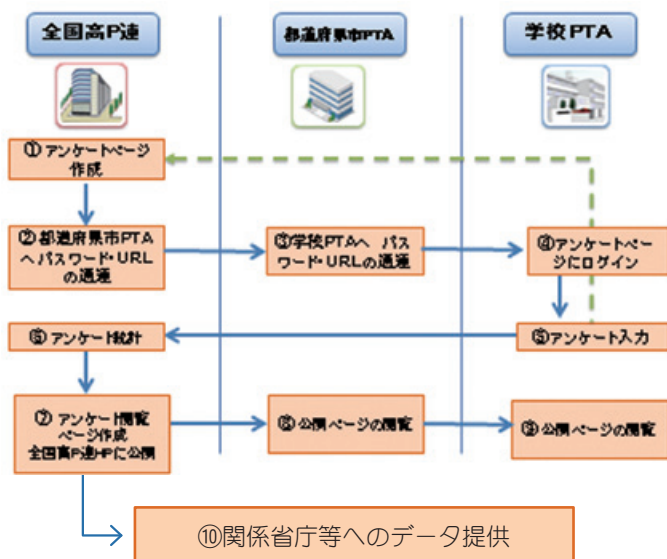
- ・各学校PTAにアンケート依頼
- ・各学校PTAにURL・ID・パスワード配布
- ・アンケート回答



各高等学校PTA

- ・アンケート回答

アンケート業務運用の流れ



調査統計システムは、全国高P連と都道府県市連合会、学校PTAを結ぶ簡便なシステムです。ウェブ化によりアンケートを簡単に実行でき、郵送費の削減、入力内容の自動集計による時間の節約、省力化が期待できます。そして、集計された結果はデータ化され、各連合会、学校PTAでいつでも閲覧することができ

4つのポイント

- ① アンケートは理事会・委員会の企画により事務局で作成
- ② 都道府県市連合会に通知（依頼）
- ③ 都道府県市連より学校PTAに依頼
- ④ 学校PTAはアンケートページにログイン
- ⑤ アンケートに回答→送信
- ⑥ アンケートの集計・分析
- ⑦ アンケート結果の開示（HP等）
- ⑧ 都道府県市連合会で閲覧
- ⑨ 各学校PTAで閲覧
- ⑩ 文科省等関係省庁等にデータ配布可
- ⑪ 連合会・学校PTA単独の調査も可

アンケート回答画面（例）

該当部分をクリックするだけ！

全国組織だからそのデータ量と信びよう性

全国高等学校PTA連合会には、約4000校が加盟しています。今回のシステム導入により、一度のアンケートでのサンプル数は、一人のみの回答の場合でも4000。複数人の回答の場合は膨大なものとなり、非常に有益で信びよう性の高いデータとして、国や関係機関の施策にも反映されることが期待されます。

全国的特色あるPTA活動をデータベース化へ

今後は、各地区や全国の学校PTAの特色ある活動や研修会発表内容などを項目ごとに分類した上で蓄積し、ホームページ上でこのデータベースを閲覧することで、学校PTAの活動の参考にしていただけるシステムを構築する予定です。

調査統計システムの運用を始めます

「高等学校PTA活動に関する調査研究」を目的とした

全国高P連では、事業目的の一つに「高等学校PTA活動に関する調査研究」を掲げています。（定款第4条の2）
しかしながら今日まで、各委員会や関係団体によるアンケート調査等はありませんでしたが、連合会自体としての会員（都道府県市連合会）や学校PTAの情報収集が不十分で、会員・学校PTAにとって有益な情報の発信が迅速・的確に行われてこなかったと反省がありました。また、高校生や青少年を取り巻く社会環境が大きく変化している中、全国高P連に対する関係省庁、関係団体からの期待が高まってきました。これらのことを踏まえ、理事会・総務委員会検討を重ね、調査統計システムを開発し、平成28年度から運用を開始することにしました。
運用に慣れるまでの間は、皆様方に何かとご負担をおかけするかとありますが、どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

「高大接続システム改革会議」

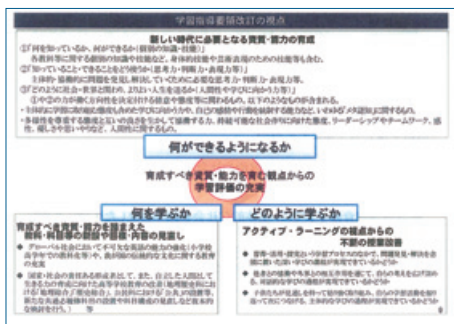
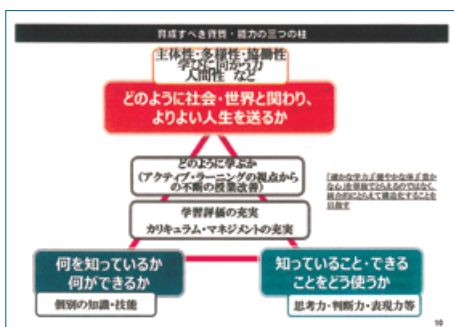
高校教育・大学教育・大学入試を三位一体で改革する「高大接続システム改革会議」に、高校PTA代表として参画させていただいた。一年間に14回の会議を行い、この三月に最終報告を文部科学大臣に答申したところである。

【改革の背景】

この改革の背景には、明治以来の近代教育が支えてきた社会とは質的に異なる今後の社会において、知識の量だけではなく、混沌とした状況の中に自ら問題を発見し、他者と協力して解決していくための資質や能力を育む必要があるという認識がある。

【大学教育改革】

その資質・能力とは、(一)十分な知識・技能(二)知識・技能を基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら答えを見出し、いく思考力・判断力・表現力(三)これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、いわゆる「学力の三要素」であり、小中学



校においてはアクティブ・ラーニング(能動的な学習)の視点からの指導方法の改善が進んでいるものの、高校においては知識の暗記・再生を主に評価する大学入試や「学力不問」と揶揄される一部のAO入試や推薦入試が出口に存在することもあり、知識伝達型の授業にとどまる傾向にあるという問題意識がある。また、大学教育においても、学生の力をどれだけ伸ばし、社会に送り出せているかについての社会からの評価も依然として厳しい。

【高校教育改革】

高校においては、(一)「何を学ぶか」の観点から、育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目の見直し、(二)「どのように学ぶか」の観点から、アクティブ・ラーニングの視点からの学習指導方法の改善と教員の指導力の向上、(三)「何が身に

ついたか」の観点から、学習評価方法の見直しや指導要録の改善などの多面的な評価の推進、に取り組んでいく。

また、高校は校種や学科・教育過程などが多様であるが、「高校生に共通する義務教育段階の学習内容を含めた基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」のため、基礎学力の定着度合いを把握する仕組みとして、「(仮称)高等学校基礎学力テスト」が実施されることになった。これは、レベル別に複数の問題群があり、何度でも随時チャレンジできるような仕組みにする方向である。

評価方法も、これまでの知識・技能中心から多面的な評価に変わっていく。「学力の三要素」を

バランスよく評価することとは勿論、部活動や校外における活動、自身が描くキャリア観に沿った評価等々である。これは、諸外国と比べて極端に低い日本の高校生の「自己肯定感」の改善にも資するものと期待している。

【大学入試改革】

大学入試も大きく変わる。現在のセンター試験に代わるものとして「(仮称)大学入学希望者学力評価テスト」が導入される。高校教育の変化に伴い、思考力・判断力・表現力を測るため、記述式の導入や複数の回答があるマークシート問題などが想定されている。また、評価方法も一点刻みではなく段階評価に変わる予定である。

【重みを増すPTAの存在】

全体を眺めると、高校のみならず日本の教育全体が、「教育」↓「学習」↓「学修」と変化していくとの感慨を持つ。学ぶ主体である人の「どのような役割を通じて社会のお役に立つのか」という個々のキャリア観に基づいて、何を学び何を修得するのかを支援することが教育の根本であろう。そう考えた時、学ぶ場や修める場、キャリア観を醸成する場は、学校だけではなく家庭・地域へと広がっていくことが必然であり、その三つを結ぶ役割を担っている私達PTAの存在はますます重要なものになるだろう。

(文責…会長 佐野元彦)

PTA活動 実践事例紹介

宮城県涌谷高等学校PTA

ふるさと特産の「仙台小ねぎ」を用いた
マラソン大会での食の提供と
生徒による地域振興支援

涌谷町は、仙台小ねぎの一大生産地である。マラソン大会では、PTAを挙げてとん汁を振る舞っている。特産の仙台小ねぎをふんだんに使っているのが特徴である。5鍋500食分のとん汁を準備し、走り終わった子どもたちへご馳走している。ふるさとの味と愛情が一杯につまったとん汁に舌鼓を打つ。とん汁を準備する一方で、必至にラストスパートしている子どもたち

へ声援を送りながら、会員の親睦を深めている。子どもたちの笑顔が間近に感じられ、この取り組みは大会の盛り上がりに一役買っている。また、涌谷



町は「仙台小ねぎの里」としてPRを行っており、年に一度小ねぎ料理のアイデアレシピコンテストが開催されている。レシピを考案する時は、子どもとの会話も弾み、家族の絆を深める絶好の機会でもある。入賞したレシピを町内の飲食店が期間限定のメニューとして提供している。ふるさとにおける六次産業の振興に大きく貢献している。



涌谷高校PTAは、ふるさとの味で行事を側面からサポートし、生徒にとつてふるさとの農産物のすばらしさを再発見する機会を提供している。地域の食材を通じたふるさと教育の実践である。PTA活動へ参加することで、子どもたちが学校生活を通して成長していくたくましい姿を間近で見守ることができる。また、学校へ協力する親の姿を示すことで、子どもたちとのつながりを築き、子どもたちが親の世代になったとき、同じようにPTA活動に力を注ぐことと確信している。

山口県

山口県立西京高等学校PTA

『西京高校高校生熟議 2015』

山口県公立高等学校PTA連合会との共催で、平成27年10月27日（火）3年生の進路決定者約90名を対象に『高校生熟議』を僕たち、私たちが、若者が地域でできること』を開催しました。この熟議は、生徒の主体的思考やコミュニケーション能力などを養うとともに、生徒達が地域との協働を視野に、地域と共にある学校の在り方・若者の姿をディスカッションすること、自己有用感と自己使命感を高め、将来に向けての「やる気スイッチ」を育てることを目的としています。

山口県初の取り組みとなった今回は、高校時代から商店街の活性化活動に関わり、『NPO法人 八幡浜元氣プロ



ジェクト』の発起人であり事務局長として活躍されている愛媛県在住の濱田規史さんをお招きし、「二枚目の名刺」をもって生きる『なぜ、いま地域活動なのか』と題して講演をいただきました。その上で6、7人の班に分かれた生徒たちは「ファシリテーター」と呼ばれる調整役の生徒を中心にグループごとに「なぜ、西京生が地域との連携に一步踏み出せないのか？」と、具体的に「原因」「課題」等を洗い出し、その「解決策」

「対応策」を熟議しました。各グループからは高校生ならではのユニークな提案や鋭い意見が発表され、見学に来られた多くの皆さんの関心を得ていました。学校・PTAとしても、これらの生徒たちの提案を、これから西京高校としていかにアクションに繋げるかという大きな課題をもちうとともに、熟議をとおし学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実させていくことを確認することができた有意義な活動となりました。



奈良県

奈良県立平城高等学校PTA

「地域との協働から生まれるもの」

奈良県立平城高等学校では、「地域との協働」に注力し、学校、PTA、生徒と共に様々な活動を行っています。

まず「愛のぞうきん運動」です。これは家庭内で不要となったタオルやマット、ぞうきんなどを

学校に持ち寄り、分別・整理の後、特別支援学校や福祉施設を訪問させていただき寄贈しています。収集については、三者懇談時に保護者と生徒が揃って持ち寄っていた

くことで、家庭内において

もこの活動について理解を深める機会となつています。

次に「クリーンアップ平城」です。これは近隣の小・中学校と連携し、夏休みの早朝に、地域の方々と共に清掃活動を実施しています。自分た



ちの学校がある「街」を地元の人たちと一緒に綺麗にすることで、自分たちにとっても大切な「街」であるという認識を深める力となつています。

このように学校が学校内での活動にとどまることなく地域の人たちと共に活動することで、地域の人々にとつて、平城高校と、そこに通う生徒たちへの理解も深まります。生徒にとつても、日々家庭から通学している学校という認識だけ

なく、地域の中に存立する学校という意識が芽生え、地域を大切にする心、社会性の向上にもつながっていきます。

多感な高校生の時期に地域とのつながりの大切さを知り、社会性を高めることは、生徒たちの未来を育て、将来、社会に貢献できる人間へとつなげる大切なことと考えています。

新潟県

新潟県立新発田農業高等学校PTA

「親子で進路を考える」

1 親子進路研修会について

平成27年度にPTA総会時に併せてPTA主催の親子進路研修会を実施しました。

会場（本校体育館）内

に約20ブース（大学や各種専門学校、企業、ハローワークなど）を設営し、250名程の保護者及び生徒が、30分×3ヶ所を回り、説明を聞く機会を設けました。

参加した保護者からは、進学及び就職について具体的な詳しい説明をもらい、とても

も参考となり、家庭で進路について話し合うよいきっかけとなったなど好意的な感想を多くいただきました。この結果を基に次年度以降もよりよい研修会となるよう計画を作成しています。



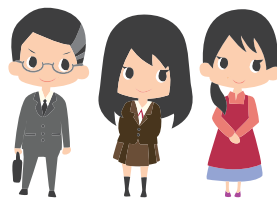
2 大学・専門学校・企業視察研修会について

本研修会は、校外進路研修会として、毎年実施している行事です。平成27年度は、進学希望者向けに大学・短大・農業大

学校コースと専門学校・就職希望者向けに専門学校・企業コースと2通りを設定しました。昼食時は両コースが合流し、活発に意見交換をしました。参加した保護者には、実際の現場や施設・設備の視察ができ、説明や質

疑応答の機会があり、とても貴重な研修となっています。

今後も保護者のためになるPTA活動を充実したいと考えています。



公開講演会

健全育成に係る研修会等の活動助成事業

「自分の脳の鍛え方」

スマホが学習記憶を消去する」



全国高等学校PTA連合会「健全育成に係る研修会等の活動助成」を活用した秋田県高等学校PTA連合会の公開講演会が、平成27年12月16日（水）秋田県立秋田高校にて行われました。県高P連と秋田高校の共催によるものです。

東北大学加齢医学研究所長の川島隆太氏を講師に迎え、「自分の脳の鍛え方」スマホが学習記憶を消去する」と題して行われた講演会。秋田高校の1・2年生と保護者、全県の県高P連会員である保護者、合わせて約700名の参加がありました。

講演会は2部形式。前半は、川島先生ご自身の調査・研究に基づく、子どもたちの生活習慣と、学力や脳の働きの関係についてのお話。後半は、川島先生と秋田高校生とのパネルディスカッションでした。子どものスマホ使用について、親としての心配

はんを、余裕をもってしつかり食べられる状況が、好循環の源になる」とのことでした。さらに、「睡眠を軽んずれば人生を無駄遣いする。成長ホルモンを分泌するノンレム睡眠と学んだことの記憶を整理・定着させるレム睡眠をしつかりと確保するために午後11時までに就寝することが望ましい」と話されます。不規則かつ深夜にシフトしがちな現代の生活スタイルに警鐘を鳴らされる川島先生の、これまでの研究結果からのお話は大変有意義でした。『早寝、早起き、朝ごはん』が標語となる時代です。昔は極めて当たり前であったはずのこの生活習慣が、脳の働きだけでなく人生の質を高めるためにも、成長期の子どもにとって如何に大事であるかを教えていただきました。



「朝ごはんは、主菜・副菜をバランス良くとること、家族とともに食べることも、の2点が重要。栄養面の配慮と食を中心とした基本的生活習慣が、脳の働きの活性化と内発的な学習意欲の向上の力ギになる。一日の始まりである朝ご

快適や便利といっている間に大事な何かを決して失うことのないよう、親の果たすべき役割を認識させられた今回の講演会を助成いただきました全国高P連に心より感謝申し上げます。

健全育成に係る研修会等への活動助成金交付状況 (27年度)

番号	助 成 対 象	助 成 事 業	実施時期	助成額(円)
1	群馬県高等学校PTA連合会	平成27年度群馬県高等学校PTA連合会講演会	2015.6.5	283,600
2	福岡県公立高等学校PTA連合会	平成27年度福岡県高等学校PTA指導者研修	2015.7.31	300,000
3	富山県高等学校PTA連合会	富山県高等学校PTA大会・指導者研修会	2015.10.20	100,000
4	秋田県高等学校PTA連合会	秋田県高等学校PTA連合会 健全育成委員会主催公開講演会	2015.12.16	300,000
5	栃木県高等学校PTA連合会	栃木県高等学校PTA連合会研修会	2016.1.15	145,000
6	茨城県高等学校PTA連合会	平成27年度 生徒指導中央大会	2016.1.25	300,000
7	神奈川県立高等学校PTA連合会	平成27年度神奈川県立高等学校 PTA連合会健全育成大会	2016.1.30	300,000

全国高等学校PTA連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？全国高P連加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

生徒1名あたり年間300円(保険料291円+制度維持費9円)

※補償開始日が平成28年4月1日の場合。補償期間中の加入については、月ごとに掛け金が減額となります。

補償期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額	平成24年度事故発生件数
1. 生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1 事故 1 億円 自己負担額 1 事故 5 千円 (注) 対人事故・対物事故合算して 1 億円が限度となります。	99%超
2. P T A活動の遂行に起因する賠償責任 (P T Aの賠償責任)	対 人	1 名 5 千万円・1 事故 5 億円
	対 物	1 事故 5 千万円
	自己負担額 1 事故 1 千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。	
	保管物	加害者 1 名 10 万円 保険期間中 500 万円 自己負担額 1 事故 5 千円
		1%未満

年度	支払金額(千円)	事故内容
19年度	87,915	無灯火の自転車 ^① で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 【過去最高支払金額】
22年度	30,494	自転車 ^① で歩道を走行中、反対側から来た歩行者と衝突し、頭を強打させ、死亡させた。
23年度	27,252	自転車 ^① で歩道を走行中、歩行者と衝突し、転倒させ、外傷を負わせた。
24年度	13,501	自転車 ^① で歩行者・自転車専用道路を走行中、歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

☆上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向にあります。自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております☆

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
東京都千代田区神田佐久間町2-1 奥田ビル301号
TEL. 03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当：公務第二部 文教公務室)	TEL. 03-3515-4133
共同引受保険会社	AIU損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損保ジャパン日本興亜株式会社	TEL. 03-5819-3416 TEL. 03-3259-4061 TEL. 03-3593-6456

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会 後援

AIU 高校生国際交流プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org/>

「育てたいのは、子どもたちの未来。」

私たちは、AIU 高校生国際交流プログラムを協賛しています。

AIU 損害保険株式会社
tel: 03-3216-6611 www.aiu.co.jp

Member of AIG

MS&AD 三井住友海上

さあ来い! リスク。

リスクとトータルに戦う
総合保険ブランド[GK]

GK

三井住友海上火災保険株式会社
〒104-8252
東京都中央区新川 2-27-2
www.ms-ins.co.jp

TOKIO MARINE NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、進む。

損保ジャパン日本興亜

損保ジャパン日本興亜は
SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03-3349-3111
(公式サイト) <http://www.sjnk.co.jp/>



『再発見!愛』 ～今こそ信じよう愛の絆～ 第66回全国高等学校PTA連合会大会

千葉大会のご案内



第66回 全国高等学校PTA連合会大会

メインテーマ
「再発見!愛」
～今こそ信じよう愛の絆～

千葉大会

平成28年
8月25日(木)
26日(金)

大会前日会場 24日(水)

主催 一般社団法人 全国高等学校PTA連合会
主会 千葉県高等学校PTA連合会
会場 幕張メッセ / アパホテル東京ベイ幕張 / ホテルニューオータニ幕張

戦後70年を経て、わが国では、少子化、高齢化が他国に例を見ないスピードで進み、若者の都市部への流出が深刻な問題となつています。地方では、人口の減少が深刻な問題となつています。社会や家族のあり様が変化の中で、地域における子どもと大人の交流の場も少なくなり、子どもや家庭の孤立化が進んでいるとも言われています。さらに、スマートフォンなどの情報端末が急速に普及し、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、平成28年8月25日(木)26日(金)の2日間、幕張メッセをメイン会場に開催されます。メインテーマに「再発見!愛」、サブテーマに「今こそ信じよう愛の絆」を掲げ、現在、実行委員会では諸準備を進めています。

大会趣旨

一方学校は、生徒が集団で学び合う場です。表情を見て、相手の心情をくみ取る力が育ち、心の通うコミュニケーションが生まれてきます。今こそ原点に立ち戻り、人との「ふれあい」、「かかわりあい」、「つながり」の大切さを、再発見しようではありませんか。

千葉大会のテーマは、「再発見!愛」～今こそ信じよう愛の絆～です。大きく変化する社会。その中で不安を抱えて生きていく子どもたちへの教育に、今何が求められているのでしょうか。子どもたちを支えていく、「学校」、「家庭」、「地域社会」とのつながり、「愛の絆」を確かなものとするために、私たち大人ができることは何かを真剣に議論し、この房総の地から全国に発信します。

大会ポスター

千葉県のマスコットキャラクターである「チーバくん」がハートを大切に持っていることで、本大会のメインテーマである「再発見!愛 ～今こそ信じよう愛の絆～」を表現しました。県民鳥のホオジロや菜の花も背景に取り入れました。

大会シンボルマーク

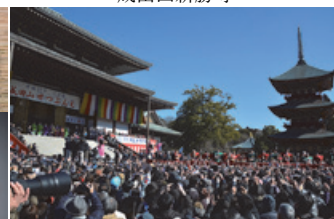
県の花である「菜の花」のお花畑の中で、千葉県の名産の落花生の旗を持った「チーバくん」が、全国大会に参加される人を歓迎しているイメージで作成しました。このロゴを見たら笑顔になってくれるような明るい作品にしました。

※ポスター、シンボルマークは高校生作品

千葉でお待ちしております!

マザー牧場

成田山新勝寺



8月24日(水) 前日会議

分科会別運営会議の会場は各分科会会場と同じ

時 間	行 事
11:00～12:00	研修委員会
13:00～13:45	分科会別運営会議
14:00～15:30	分科会リハーサル
16:00～17:00	大会運営会議 全国事務局長会議
17:30～19:30	レセプション

8月25日(木) 大会第1日目[午前]

＜開会式・全体会・表彰式＞

(主)幕張イベントホール

(副)国際展示場9ホール

時 間	行 事
8:30～	受付
9:00～ 9:30	アトラクション
9:40～10:40	開会式
10:50～11:50	基調講演
12:00～13:00	昼食 アトラクション

8月25日(木) 大会第1日目[午後]

＜分科会＞

13:00～13:30 受付：各分科会会場

時 間	分 科 会	会 場
	全国高P連研究発表	幕張イベントホール
14:00	第1分科会	国際展示場9ホール
～	第2分科会	国際展示場2ホール
16:00	第3分科会	国際展示場3ホール
	第4分科会	国際会議場
	特別第1分科会	アパホテル東京ベイ幕張
	特別第2分科会	ホテルニューオータニ幕張

8月26日(金) 大会第2日目[午前]

＜記念講演、閉会式＞

(主)幕張イベントホール

(副)交際展示場9ホール

時 間	行 事
8:30～	受付
9:00～ 9:30	アトラクション
9:40～10:50	記念講演
11:00～11:20	分科会の報告
11:20～12:00	閉会式